

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2020年8月27日

1. 新型コロナ、喫煙、認知と行動の不一致: イギリスの53,002名調査結果

【松崎雑感】

症状があっても、初回のPCRがマイナスで、2度目がプラスとなる例が報道されています。ウイルス量が少なかったか、検体の採取法が不適切であるとか、測定器の精度管理が適切でなかったとか、いろいろ考えられます。

大事なことは、発熱や呼吸器症状がある場合、PCRがマイナスでも自己隔離をしっかりと続けることです。流行地では、私は、1回目も2回目もPCRと抗体検査の両方を行った方が良いと考えています。

新型コロナ、喫煙、認知と行動の不一致: イギリスの53,002名調査結果

Jackson SE (Department of Behavioural Science and Health, University College London), Brown J, Shahab L, Steptoe A, Fancourt D. **COVID-19, smoking and inequalities: a study of 53 002 adults in the UK** [published online ahead of print, 2020 Aug 21]. *Tob Control*. 2020;tobaccocontrol-2020-055933. doi:10.1136/tobaccocontrol-2020-055933

目的

喫煙と新型コロナ感染の関連を調査。認知と行動の不一致に関する交絡因子の調整解析。

方法

イギリス国民53,002名のオンライン断面調査研究。調査項目は、喫煙習慣、新型コロナ感染の有無、感染で重症になることをおそれる感情、感染予防対策の遵守状態、年齢、性別、エスニシティ、学歴、職業(エッセンシャルワークかどうか)、持病。

結果

新型コロナ感染と診断された者は、生涯非喫煙者(0.26% (95% CI 0.21% to 0.33%))と比べて、現在喫煙者(0.56% (0.41% to 0.75%))に有意に多かったが、過去喫煙者(0.19% (0.13% to 0.28%))とは差がなかった。感染率は交絡因子の調整前後でも変わりがなかった。(調整前:生涯非喫煙者に対する現在喫煙者のオッズ比2.14 (1.49-3.08)、過去喫煙者のオッズ比0.73 (0.47-1.14);調整後それぞれ1.79 (1.22-2.62)、0.85 (0.54-1.33))。

感染率は社会経済階層が低い現在喫煙者に高かった。(中略)生涯非喫煙者と比べて、現在および過去喫煙者は、新型コロナ感染で重症になる不安を抱える者が有意に多かった(オッズ比:現在喫煙者1.34 (1.27-1.43);過去喫煙者1.22 (1.16-1.28))。現在喫煙者の感染予防対策の遵守率は、生涯非喫煙者よりも有意に低かった(オッズ比0.70 (0.62-0.78))。

結論

この調査の集団においては、現在喫煙者が新型コロナ感染と独立に関連していた。低学歴の階層で感染者が多かった。生涯非喫煙者と比べて、喫煙者は感染防止対策遵守が低率だったが、感染に対して大きな不安を抱いていた。

この論文の要旨と要点:

- 一般的には、過去および現在喫煙者はウイルスや細菌が呼吸器に感染しやすく重症化しやすい。
- しかし、新型コロナウイルスに感染して入院した人々の喫煙率は、一般住民の喫煙率よりもずっと低いという報告が多い。
- イギリスで一般住民を対象として実施された大規模調査から、喫煙が新型コロナウイルスを予防するという仮説を否定する結果が得られた。さらに現在喫煙者では、新型コロナウイルスに感染している者が生涯非喫煙者よりも有意に多いことが明らかになった。この関係は交絡因子の調整によっても変わらなかった。
- 社会経済的格差と感染率に明らかな関連が見られた。学歴の低い喫煙者に新型コロナウイルス感染率が高かった。
- 喫煙者は生涯非喫煙者と比べて、感染防止対策遵守が低率だったが、感染に対して大きな不安を抱いていた。